



事例や課題を出し合い、対処法を探るグループディスカッション

運転中の健康起因事故

事例報告や対処法協議

健康に起因する運輸業界の事故防止を推進するNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)主宰の安全と健康を推進する協議会「両輪会」は第15回目の情報交換会を17日、大阪府トラック総合会館で開催した。今回のテーマは「実例から検討する健康起因事故防止対策」で定期健康診断と睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の重要性を確認した。

今回の参加者はトラック、バス、タクシーなど

事例や課題を出し合い、対処法を探るグループディスカッション

OCHISの作本真子副理事長は、このほど全日本トラック協会の委託を受けて作成した「トラ

ック運送事業者のための運輸各モードから約40人で、それぞれ代表者や運行管理、労務、総務など担当者が自社の課題を改善しようと真剣な討議を行った。

参加者からの事例紹介では、トラックに備えたドライブレコーダーの画像をもとに、運転中に急性心筋梗塞となったドライバーのふらつき運転など危険な運転状況を説明。指導員が同乗していたため重大事故にはならなかつたものの単独運行なら事故は避けられず、ドライバーの生命にも大きな危険があつたという。

同社はドライバーの過去5年間の健康診断結果から再検査を促すイエローライドを出していったが、再検査を受診していないかった。緊急入院後、同社はドライバーの復帰に向けての取り組みも紹介し、参加者の強い関心を呼んだ。

ホームページからプリントできるもので、健康診断やその後のフォローの重要性を説いたほか、プリントして即時流用できる診断書サンプルなどの活用を呼び掛けた。

また5つのグループに分かれてディスカッションもを行い、それぞれが抱える課題や事例、対処方法などを話し合い、内容の発表や情報を共有した。

「両輪会」大阪で情報交換会